



国土交通省
東北地方整備局
山形河川国道事務所



事務所長 **和田賢哉** 氏

つながる道路 ひろがる可能性

3月30日、東北中央自動車道「金山道路」の新規事業化が発表され、全線開通へ向け、大きく前進しました。開通後は、移動時間の短縮はもちろん、インバウンド観光の促進や物流の効率化が図られるなど、新庄最上地域でも波及効果が期待されます。

人々の生活に欠かすことのできない道路。今回の東北中央自動車道の新規事業化を受け、改めて道路がつながる意義を考えます。



きい状況となっています。

このたび東北中央自動車道延長約268kmの全区間が事業化。高速道路が広がり、インバウンド観光の促進や物流効率化、新たな企業立地や商圏の拡大などが期待されます。

事業実施状況と今年度の予定

新庄市より北側では、南から泉田道路・新庄金山道路・金山道路・真室川雄勝道路の4カ所の事業を進めています。

泉田道路は、道路が開通するまでにかかる総事業費の約27%が完了しており、用地も95%は取得している状況です。また、新庄金山道路は、総事業費の約3%、用地の取得は10%となっています。昨年度から用地買収に着手しており、今年度から一部区間の工事を予定。金山道路と

真室川雄勝道路は、道路設計などの調査を予定しています。

縦軸・横軸の道路整備と新庄最上地域への影響

新庄最上地域は、縦軸の国道13号や東北中央自動車道と、横軸の国道47号や地域高規格道路の新庄酒田道路が交差する地点。庄内地方や村山地方、秋田県や宮城県の交流・連携を推進する重要な地域です。

縦軸の東北中央自動車道は、大石田村山〜尾花沢間が4月15日に開通し、さらに東根〜東根北や南陽高畠〜山形上山など、続々と開通が予定されています。また、横軸の新庄酒田道路では、3月に余目酒田道路が開通し、今年度は新庄古口道路の一部区間が開通する予定。縦軸・横軸ともに整備が進んでおり、地域間交

流の促進が期待されます。

道路の整備により、魅力ある観光資源を活かした交流人口の拡大や交通ネットワークを活かした企業活動の促進など、新庄最上地域の振興が期待されます。

道路がつながるといって

人々の生活に道路は欠かすことができません。日常生活や生産活動を支える重要な社会基盤であり、地域間の連携・交流を促進する空間です。高速道路などの道路は、造ることが目的ではなく、その道路を地域全体がどのように活用し、どんな地域にしていきたいか、そこに住む地域の皆さんが主役となり、行動することが重要です。道路がつながることによって、ひろがる可能性を、皆さんとともに考えていきたいと思えます。

昭和59年 西暦1984年
昭和59年以降、横手南バイパス、湯沢バイパス、尾花沢新庄道路の順で事業化がなされました。

昭和27年 西暦1952年
新道路法が制定され、山形を縦断する秋田市〜福島市間の道路が国道13号となりました。

昭和12年 西暦1937年
道路が改築されたことで、万世大路は昭和12年に車が通れるようになりました。しかし、冬の積雪3mを除雪することは、当時としてはまだ難しく、冬期5ヶ月は交通不能となっていました。

明治18年 西暦1885年
江戸時代から続く羽州街道は、栗子隧道開通を受け、上山から先は万世大路を通るルートへと変更されました。その後、順次改修が進み、明治18年に国道として扱われるようになりました。

明治14年 西暦1881年
万世大路の栗子隧道（米沢〜福島間のトンネル）は明治14年に開通。延長約876mあり、当時の日本では最長のトンネルでした。この頃は、人馬が通ることを想定した道路でした。

東北中央自動車道の歴史
TOHOKU-CHUO EXPRESSWAY HISTORY

東北中央自動車道は、その前身ともいえる羽州街道（青森〜秋田〜山形〜福島）や栗子（米沢〜福島間）の「万世大路」から始まります。

▲明治14年に開通した初代栗子隧道米沢側入口

町の皆さんに聞きました！



金山町街並み案内人会
阿部 一代さん



金山町花火大会実行委員会
小野 富雄さん



ホテルシェーネスハイム金山
総支配人 有路 稔さん

街並みは町民の誇り
道路がつなぐ交流の輪を

長い年月をかけて町民が創りあげてきた街並み。町の誇りであり、大きな観光資源です。一度知っていただくと、何度も訪れてくださるリピーターが多くいらっしゃいます。街並み案内や訪れた方々との交流を通して、町の魅力を知っていただくことが、私たちの活動のやりがい。道路整備により、金山を目的地として訪れてくれる方が増えれば何よりの喜びです。

道路が伝統をつなぐ
納涼花火大会をこれからも

夏の祭典である「金山まつり」。毎年、納涼花火大会が祭りのフィナーレを飾っています。最上地区随一の歴史を持つ本大会は、今年で59回目。町の花火好きが熱い思いで伝統を継承しています。道路がつながることで、町の一大イベントである金山まつりの雅やかな山車やお神輿とともに、たくさんの方が金山の花火を楽しんでくださると嬉しく思います。

アクセスの悪さを解消
ホテルを拠点とした観光を

金山には自然や食べ物などの魅力があるが、アクセスが悪い。特に冬期間は「来にくさ」について、お客様からご意見をいただくこともあります。スキー場も隣接しており、リゾート地として、一年を通し楽しむことができます。道路ネットワーク拡大によって、来場者の増加と、当ホテルを拠点に新庄最上地域の観光振興に期待したいと思います。

道路はあくまで手段のひとつ
整備効果を地域の活性化へ

道路は造ることが目的ではありません。できた道路を地域全体でどのように活用していくかが重要なのです。そこに住む住民が主役となって考え行動することで、整備効果が生まれます。

観光協会では、金山町がいわゆる「観光地」ではないことを自負しながら、町に暮らす皆さんの快適さ、満足さを第一に考えてきました。その結果、訪れる方々に懐かしさやホッとできる空間として魅力を発信できていると実感しています。イベントも一年を通して開催。金山まつりや神室溪流釣り大会に加え、神室雪まつりでの「雪中花火」など新たな取り組みも展開し、地域に根付いた支援を行うことで、賑わいを創出していきたいと思います。今年度は、増加傾向にあるインバウンドを意識して、地域資源を生かした外部への情報発信を積極的に進めていきたいと考えています。

高速道路の整備は当町の観光にとって追い風。昨年11月に東北中央自動車道「福島大笹生―米沢北」間が開通しました。開通後、当区間を利用して県内を訪れた人の数は、開通前と比べて倍増したと聞いています。県南の主な観光地では、来場者が軒並み増加したとのこと。道路がつながることは、観光客の動向に大きなインパクトを与えるのです。とはいえ道路はあくまで手段のひとつ。整備効果を地域の活性化に生かさなければ意味がありません。観光協会として「金山町らしい観光」について、新しい視点を取り入れながら、さらなる交流人口増加につながる事業を展開していきます。

道路がつながることは観光客の動向にも大きなインパクト
インバウンドも意識しながら「金山らしい観光」を展開



金山町観光協会
会長 星川 広喜さん

昭和62年 西暦1987年6月
第四次全国総合開発計画の閣議決定により、相馬―横手間が高規格幹線道路に構想されました。

平成

平成9年 西暦1997年11月
米沢北IC―南陽高島IC開通

平成11年 西暦1999年11月
川原子IC―新庄IC開通

平成14年 西暦2002年9月
山形上山IC―東根IC開通

平成18年 西暦2006年11月
野黒沢IC―川原子IC開通

平成19年 西暦2007年9月
東根IC―尾花沢IC工事着手

平成23年 西暦2011年3月
新庄IC―新庄北IC開通

平成26年 西暦2014年4月
南陽高島IC―山形上山IC工事着手

平成26年 西暦2014年9月
新庄北IC―(仮)昭和IC工事着手

平成27年 西暦2015年4月
(仮)昭和IC―(仮)金山ICが事業化

平成29年 西暦2017年4月
真室川雄勝道路が事業化

平成29年 西暦2017年11月
福島大笹生IC―米沢北IC開通

平成30年 西暦2018年4月
金山道路(仮)金山IC―(仮)金山北IC)の事業化により、東北中央自動車道的全線が事業化。事業化に向け、金山町長をはじめ、沿線自治体の首長による要望活動が行われました。



▲管内閣官房長官への要望の様子

西暦2018年4月
大石田村山IC―尾花沢IC開通

東北中央自動車道に関わる

4市町対談（ま真室川町 金山町 新庄市 舟形町）



山形県を縦断する東北中央自動車道の沿線にある4市町（真室川町、金山町、新庄市、舟形町）の方々にお集まりいただきました。農業や運送業に従事する方々で、道路が繋がることで生まれるメリットや、最上地域振興としてできることなどについて、それぞれの立場から語っていただきました。

東北中央自動車道などの道路整備により、皆さまから見るとどのようなメリットが生まれましたか？

佐藤昭彦（以下佐藤昭）…高規格道路が延伸することで、目的地までより早く到着できるようになり、輸送時間を短縮することができ、より安全な運送ができるようになります。昨今問題になっている運送手の労働時間を減らすことができ、より安全な運送ができるようになると思います。また、労働時間の問題で、輸送先が関東までと限られていたのですが、いずれは輸送できる範囲を広げられる可能性があります。輸送時間や運送手の労働時間は運

賃にも関係してくるので、良い影響がでてくれれば良いと考えています。

長倉直人（以下長倉）…当社の場合、関東方面はもちろんですが、北方面への輸送面でメリットを大きく感じます。昨年からは青森県五所川原市で農地を借りて、野菜の栽培を始めました。青森へ肥料などを運ぶにしても、逆に青森から生産物を集荷してくるにしても、現状では北へ向かう便が少ないため、チャーター便で運ぶ必要があり、コストが大きいという課題がありました。金山と秋田が高規格道路でつながってくると、チャーター便を使わなくても済みますし、少量でもコス

トを抑えて運べるメリットがでてくるのかなと思っています。

佐藤孝和（以下佐藤孝）…私たちは、トマトやブロッコリーなど日持ちの悪い青果品を生産出荷しています。高速道路ネットワークの整備が進むことで、安心して品質の良い商品をより早く消費者のみなさんに提供できることになると思います。

大場宗一（以下大場）…主に米の流通がメインとなっております。米の流通がメインとなってくるのですが、その売上の5%ちかくを物流費が占めています。見えない部分での企業努力でコスト削減することも含め、道路が整備されることで、物流に係るコストの削減につながるのではないかと思います。

また、高規格道路の整備により、モノも動くと考えられます。各業種で協力することで山形の農産物をうまく流通に乗せられるのではないかと思います。

道路が広がることで、最上地域振興にどのようにつながると感じますか？

大場…舟形町は最上地域の一番南に位置しており、私自身、秋田県などの北の地域の距離感よりも、南の地域の距離感のほうが近く感じました。今後北の方に道路が整備されていくということで、北の方にも目を向けていくきっかけと

なると思います。

神社仏閣や伝統、文化などの観光に行く方が多いのではないかと感じます。そういった伝統、文化などもこの最上地域にはあると思うので、人の動きといった面でも、南北に道路が繋がれば交流人口の増加にもつながるのではないかと思います。

佐藤孝…及位地区は秋田県との県境にあります。道路が整備されることで新庄方面、秋田方面で交通の便が良くなり、救命・医療の面、農業だけでなく林業や製造業などさまざまな事業にも効果的であると思います。そういったことから道路が早くつながってほしいです。

長倉…この地域の基幹産業はやっぱり農業。農作物がたくさん動けば、地域の振興に直結すると思います。道路がつながることで、物流費が抑えられ、利益が上がり雇用が増加するといったような好循環が、当社を含めた地域全体で起れば嬉しいことです。コストを抑えられた分、販売価格が下がって、物流もはけるようになればより理想的です。

当社は4月の約1ヵ月間以外、ほとんど通年で生産物を出荷しています。冬期間は「かまくらやさい」の出荷がメイン。一度収穫したものを貯蔵し、雪の下から掘り出すという作業が必要であり、倍の人件費がかかります。ある程度

単価で販売しなければならず、多くは関東方面へ出荷しています。物流面でコストを抑えることができれば、道の駅など近場での販売も可能となります。青森の農地でも「かまくらやさい」を生産。山形のみならず東北のモノを運ぶことで関東に売りこみやすくなると思います。

佐藤昭…東北中央自動車道は、山形県を縦断する長い道路になります。休憩をとって安全な運転をする意味でも、最上地域の物産振興の意味でも最上区間に道の駅などがあるパークینگエリアを設置してほしいです。

佐藤運送では、新庄まつりのラッピングトラックを6台運行しています。関東圏に住む新庄市出身の方に喜んでもらっています。今後も運送業の中でのアピールなど、地域貢献に寄与できればと思います。

道路の利便性の高なることや、目的地までにかかる時間が短くなることは、震災時の被災地への物資輸送などの災害支援時にも有用です。道路が繋がることは、平時の生活を豊かにするだけでなく、非常時の対応を迅速にし、人々の安心感を生み出せるものだと思います。東北中央自動車道だけでなく、多くの道路がつながることで、人々の生活がより安全で豊かなものになっていくことを期待しています。

舟形町
hunagata town

大場宗一 氏
株式会社大場惣吉商店 代表取締役

創業は明治44年。企業として設立は平成7年。
信頼できる生産者と協力して、舟形の清流の水で育てられたこだわりの美味しい米の、集荷・販売を行っています。

新庄市
shinjo city

佐藤昭彦 氏
株式会社佐藤運送 代表取締役

ニラなどの農産物を含む生鮮食品を主体に輸送。
地域貢献の一環として、首都圏に向け、新庄まつりのラッピング（原寸大山車の写真）が施されたトラックを運行しています。

金山町
kaneyama town

長倉直人 氏
株式会社エヌシップ 代表取締役

家業である農家を継ごうと平成22年に就農し、平成24年1月に当社設立。当地ならではの「かまくらやさい」の生産や6次産業化に取り組みながら、周年農業を通した町内での雇用拡大を目指します。

真室川町
mamurogawa town

佐藤孝和 氏
農事組合法人ひまわり農場代表理事

農事組合法人ひまわり農場に就農し、今年2月に代表理事に就任。農地の集積を図り、大豆、米、ブロッコリー、ミニトマトや飼料作物の栽培など、真室川町全域の農地の担い手として活躍しています。